

令和5年2月27日  
農推第1210-11号

## 病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

施設では内外の温度差が大きく、農作業中に体調を崩しやすいので御注意ください。

## 特に注意！（3月）

なす（施設栽培）：  
灰色かび病

灰色かび病症状＊

## 特徴

- u 咲き終わった花弁や幼果に感染しやすく、20℃程度の多湿な環境条件や過繁茂で発病が多くなる。

## 防除のポイント

- u 適度に換気を行い、湿度を下げる。
- u 発生が見込まれる時期にベルコート水和剤等を、発生を認めたらセイビアーフロアブル20、ゲッター水和剤、パレード20フロアブル等を散布する。

なす（施設栽培）：  
アザミウマ類

ミナミキイロアザミウマ成虫※

## 特徴

- u ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマが果実や葉を加害する。なお、ミカンキイロアザミウマの果実被害は、「水なす」で目立つ。

## 防除のポイント

- u 苗からの持ち込みによる発生に注意する。
- u 育苗期後半～定植当日にモベントフロアブル等か、定植時にスタークル／アルバリン粒剤等を施用する。
- u 発生が見られたら、アフーム乳剤、ファインセーブフロアブル、バストガード水溶剤等を散布する。
- u 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

たまねぎ：べと病



べと病（越年り病株）

## 特徴

- u 越年り病株として1～2月に病徴（葉が萎縮・黄化し、つやがなく、ねじ曲がり、硬くなる）を現し、周辺への伝染源になる。

## 防除のポイント

- u 越年り病株は取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。
- u ジマンダイセン／ペンコゼブ水和剤、ランマンフロアブル、ダコニール1000等を予防的に散布する。

次回の情報は3月下旬にお知らせします。

◎「防除指針」<http://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>

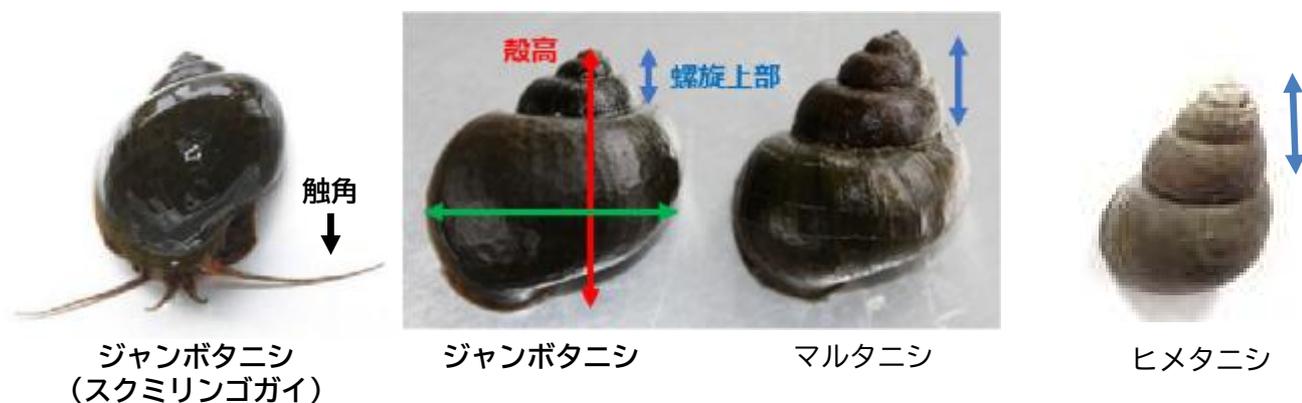
※農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

\*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

# 水稻

## ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）



注) 当該項目「ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）」の写真は、農林水産省リーフレット「ジャンボタニシによる水稻の被害を防ぐために」より引用。

### 特徴

- u 成貝の殻高は2～7cm程度。
- u 他のタニシ類に比較して、螺旋上部の長さが短く、殻径と殻高がほぼ同じである（上部写真参考）。
- u 主に田植え直後（約20日後まで）の苗が食害され、欠株になる。
- u 年々発生地域が拡大している。

### 防除のポイント

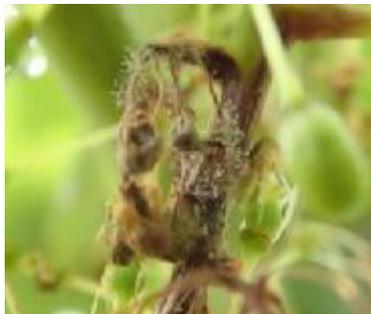
- u 耕うんの際、耕うん機等の土に貝が付着することがあるので、移動の際はしっかり土を落とす。
- u 本貝には人体に有害な寄生虫（広東住血線虫）がいる場合があるため、ゴム手袋やゴミ拾い用トング等を使用し、素手では扱わないようにする。もし、素手で触った場合には、石けんで手をよく洗う。

●詳細は、技術資料「ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）から稲を守りましょう！」を参照  
<http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/tanishi/tanishi2017.pdf>

## 果樹

## ぶどう（加温栽培）

## 灰色かび病



灰色かび病の症状

## 特徴

- u 多湿条件で発生が多くなる。
- u 胞子が雨や風によって飛散し、傷口等から感染する。

## 防除のポイント

- u 適切に換気を行い、湿度を下げるようにする。
- u 第1回ジベレリン処理から結実始めの間にビニルでマルチングをする。
- u 花がらが発生源となることが多いので、開花後に花がらを取り除く。
- u 開花直前または落花直後にゲッター水和剤、スイッチ顆粒水和剤、ネクスターフロアブル等を散布する。

## ハダニ類



カンザワハダニ※

## 特徴

- u 加温機の近くやダクトの先端部等、高温になりやすいところから発生することが多い。

## 防除のポイント

- u 発生を確認した場合は、マイトコーネフロアブル、ダニコングフロアブル、ダニトロンフロアブル等を散布する。

## ハスモンヨトウ



ハスモンヨトウの幼虫\*

## 特徴

- u 幼虫が葉や新芽を食い荒らす。
- u 卵は100個くらいの塊で葉に産み付けられるので、卵からかえった幼虫が集団で葉を食べる。
- u 早期加温栽培では3～4月に被害を受けやすい。

## 防除のポイント

- u 幼虫が集団で発生している葉を切り取って処分する。
- u 発生を確認した場合は、エクシレルSE、フェニックスフロアブル、ディアナWDG等を散布する。

## クワゴマダラヒトリ



クワゴマダラヒトリの幼虫※

## 特徴

- u 成虫は年1回、アカメガシワ、ニセアカシア、カラスザンショウ等に産卵する。
- u 越冬は、主に中齢幼虫で落葉や樹木の地際部で行う。越冬後、3月以降に幼虫が移動しブドウの新梢や葉を食害する。

## 防除のポイント

- u 生育初期に新梢の生長点に加害されると、被害が大きいため初期防除に努める。
- u 発生を確認した場合は、エクシレルSE、フェニックスフロアブル、オリオン水和剤40等を散布する。

## いちじく

## ハダニ類、カイガラムシ類



カンザワハダニ※



フジコナカイガラムシ幼虫※

## 防除のポイント

- u 夏期の被害をおさえるため、3月中旬（発芽前）に石灰硫黄合剤を散布する。

## もも

## せん孔細菌病



春型枝病斑

葉の病斑

## 特徴

- u 春になると越冬した病原菌が増殖し、春型枝病斑（スプリングキャンカー）を生じる。
- u 病原細菌は、雨水に混じって分散し、気孔や傷口から感染する。

## 防除のポイント

- u 開花期直前にICボルドー412を散布する。（葉害を生じるおそれがあるため、開花後から8月下旬までは使用しない。）
- u 春型枝病斑を見つけたら、落花期までに切り取ってほ場外に持ち出し処分する。
- u 風当たりの強いほ場では防風ネットを設置する。

## バラ科果樹（もも、すもも、うめ等のサクラ属）

## クビアカツヤカミキリ



## 防除のポイント

- u 被害が大きい樹は伐採し、破碎（チップの厚さは10mm以下を目安）や焼却することが望ましい。
- u 伐採した枝や幹はほ場に放置せず処分する。すぐに処分ができない場合は、ネットやビニルシート等で2重に覆う。伐採後の切り株についても、ネット（目合い4mm）やビニルシート等で2重に覆い成虫が分散することを防ぐ。
- u 幼虫は3月下旬から中華麺～うどん状のフラス（木くず等の混合物）を出すので注意する。
- u フラスを見つけたら、千枚通しや針金等を穴に入れ、中のフラスをかき出してからロビンフッド、ベニカカミキリムシエアゾールを注入するか、幼虫を突き刺して殺虫する。

## 伐採後の切株について



## 処分に伴う運搬について

- u 本種は特定外来生物に指定されており、伐採樹であっても、内部に幼虫が潜んでいる場合は運搬が制限される。このため、処分のための運搬であっても市町村の指示に従うこと。
- u 市町村焼却施設（もしくは市町村の清掃工場）で焼却可能な場合は、ネットで被覆する等の分散防止措置を実施の上、現地より運搬して焼却する。

## 野焼きについて

- u 廃棄物の処理と清掃に関する法律第16条の2により、野焼きは原則として禁止されている。一方で施行令第14条第4項において、「農業を営むためにやむを得ないものとして行われる廃棄物の焼却」については例外とされている。例外に該当するかどうかは市町村によって異なるため必ず確認し、なるべく焼却施設にて焼却する。

●詳細は、技術資料「クビアカツヤカミキリの生態と防除対策」を参照  
[http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/Aromia\\_bungii/kubiaka2112V2.pdf](http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/Aromia_bungii/kubiaka2112V2.pdf)

## 野菜

## トマト・ミニトマト（施設栽培）

## すすかび病・葉かび病



## 特徴

- u 日照不足で樹勢が落ちると発生しやすい。
- u すすかび病は近年増加傾向にある。葉かび病より、葉裏のかびが黒く見えるが、肉眼で見分けることは困難である。葉かび病抵抗性品種で症状が見られる場合は、すすかび病を疑う。

## 防除のポイント

- u 多発すると防除が困難であるため、予防的散布が重要である。
- u 発生が見込まれる時期に、ダコニール1000、ベルコートフロアブル等を散布する。発生を認めたら、トリフミン水和剤、ファンタジスタ顆粒水和剤、アフェットフロアブル等を散布する。

## 灰色かび病



## 特徴

- u 施設栽培で発生が多い。20℃程度の多湿時に発生が多く、花がらや果実のがくから発生することで、果実にも被害が生じる。

## 防除のポイント

- u 発生が見込まれる時期に、ダコニール1000、ベルコートフロアブル等を散布する。発生を認めたら、ファンタジスタ顆粒水和剤、ゲッター水和剤等を散布する。

## コナジラミ類（トマト黄化葉巻病）



## 特徴

- u すす病を引き起こす他、タバココナジラミはトマト黄化葉巻ウイルス（TYLCV）の媒介や吸汁による果実の着色異常等、様々な被害を引き起こす。

## 防除のポイント

- u トマト黄化葉巻病は、定植後の早い時期に感染すると収量への影響が大きく、株ごと除去する以外に対策がないため、コナジラミ類の防除を徹底する。
- u 施設開口部に目合い0.4mmのネットを展張する。
- u ほ場内および周辺の雑草の除去を徹底する。
- u グレーシア乳剤、コルト顆粒水和剤、トランスフォームフロアブル等を散布する。

## たまねぎ

## 白色疫病



白色疫病発病株

## 特徴

- u 2～3月が比較的温暖で雨が続くと発生しやすい。

## 防除のポイント

- u 発生が見込まれる時期に、予防散布として、ランマンフロアブル、ジマンダイセン水和剤を散布する。
- u 発生を認めたら、ザンプロDMフロアブル、プロポーズ顆粒水和剤、リドミルゴールドMZ等を散布する。

## ネギアザミウマ



ネギアザミウマ成虫 ※

## 特徴

- u 成幼虫が葉の汁を吸い、吸われた痕はカスリ状に色が抜けて白くなる。
- u タマネギえそ条斑病を引き起こすウイルス（IYSV）を媒介する。

## 防除のポイント

- u 発生を認めたら、グレーシア乳剤、プレオフロアブル、スミチオン乳剤等を散布する。
- u 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。